

特集 地方産業都市の興隆と安定： 希望学・釜石調査からの考察

序 文

この特集は、2006-7年度に東京大学社会科学研究所が岩手県釜石市で実施した総合地域調査・希望学釜石調査の研究成果のうち、データ処理や史料の分析に時間を要したため成果本（東大社研・玄田有史・中村尚史編『希望学2 希望の再生』、同『希望学3 希望をつなぐ』、いずれも東京大学出版会より2009年に刊行）に掲載できなかった論文や、同シリーズで論じきれなかった問題を考察した論文を集めたものである。

希望学・釜石調査は、東京大学社会科学研究所全所のプロジェクト研究「希望の社会科学的研究」（通称「希望学」、研究代表者・玄田有史）の一環であり、経済学・法学・政治学・歴史学、社会学の研究者32名が参加した、大規模な総合地域調査であった。その研究組織は以下の通りである。

- a. 新日鐵釜石製鉄所班…釜石製鉄所OB調査、技能伝承調査、製鉄所文書調査
- b. 歴史文化班…社会思想史調査
- c. 地方政治班…市議会議員調査
- d. 社会調査班…高校同窓会調査・法意識調査
- e. 地域振興政策班…地域企業調査、漁業経済調査、行政と市民調査、環境政策調査、スポーツ振興調査

このうち本特集では、①新日鐵釜石製鉄所班による釜石製鉄所の経済史的分析（中村・梅崎・小林・青木）、②社会調査班が行った高校同窓会調査と住民意識調査という2つのアンケート調査を用いた社会学的分析（永井・西野・石倉）と、③地域振興政策班に関連する三陸地域の地域活性化をめぐる現状分析（橘川）とローカル・アイデンティティ概念の再検討（大堀）から構成されている。

東大社研・玄田有史・中村尚史編『希望学2 希望の再生』、同『希望学3 希望をつなぐ』が釜石における「希望の社会的位相」に焦点をあて、「希望」という切り口で地域社会の実相に迫ったのに対して、本特集は希望学・釜石調査の舞台となった釜石という地方産業都市の歴史と現状を、執筆者各自の視角で立体的に描いたものである。その意味で、本特集は『希望学』第2巻、第3巻の土台となった実証的、理論的研究の集合体であり、シリー

特集 地方産業都市の興隆と安定：希望学・釜石調査からの考察

ズ希望学と相互補完関係にある。本特集のメイン・タイトルに、シリーズ希望学で多用した「希望」という言葉を用いず、敢えて、「地方産業都市の興隆と安定」というオーソドックスなタイトルを付した理由もまた、こうした役割分担を意識したからである。本特集を、東大社研・玄田・中村編『希望学2 希望の再生』および同『希望学3 希望をつなぐ』と併せてお読みいただくことを、心より願っている。

編集責任者 中村尚史